

「北海道価値創造パートナーシップ会議」 の開催状況等について

「北海道価値創造パートナーシップ会議」開催状況・・・・・・・・・・・・・・P1

「北海道価値創造パートナーシップ現地ヒアリング・意見交換」実施状況・・P3

平成27年6月30日
国土交通省北海道局

「北海道価値創造パートナーシップ会議」開催状況

～新たな北海道総合開発計画に向けて～

開催趣旨

北海道内各地域の課題解決・活性化に携わる方々から広く御意見をお伺いし、新たな北海道総合開発計画の立案に活かすとともに、地域づくりの関係者相互の協力関係の促進を図るため、「北海道価値創造パートナーシップ会議」を太田国土交通大臣出席のもと、平成27年3月8日に札幌市にて開催（札幌会場のテーマ：「人が輝く地域社会」と「世界に目を向けた産業」）。その後、以下のとおり、道内4カ所で順次開催。

開催概要

～ 会議のテーマ：『人が輝く地域社会～「世界水準の価値創造空間」の形成に向けた環境整備・対流促進』～

苫小牧会場

日時 平成27年4月24日（金）
14:00～16:00

場所 苫小牧市文化交流センター
2階 講習室
（サブテーマ）雇用の維持・創出

（ご出席者）

石井 宏和	neeth(株) 代表取締役CEO
井田 芙美子	(株)いただきますカンパニー 代表取締役
浦田 隆	株式会社油屋福太郎 取締役常務・福太郎(株) 小清水北陽工場長
近藤 和彦	トヨタ自動車北海道(株) 取締役副社長
須賀 紀子	登別温泉郷滝乃家 取締役女将・北海道女将の会 会長
布村 重樹	函館がごめ連合 代表
星川 光子	NPO法人いぶりたすけ愛理理事長



岩見沢会場

日時 平成27年5月15日（金）
14:00～16:00

場所 岩見沢市自治体ネットワークセンター 4階 マルチメディアホール
（サブテーマ）定住環境の整備・対流の促進

（ご出席者）

石渡 杏奈	いわみざわ公園バラ園 バラ管理・色彩館 サブマネージャー
奥田 知靖	国立大学法人北海道教育大学岩見沢校教育学部 准教授
小西 泰子	豊正FAM協議会ふれあい室 室長
坂本 純科	NPO法人北海道エコレッジ推進プロジェクト 理事長
谷川 良一	NPO法人グラウンドワーク西神楽 理事
横井 清	移住推進会議「移る夢深川」 会長



網走会場

日時 平成27年5月20日（水）
14:00～16:00

場所 オホーツク・文化交流センター 2階 大会議室
（サブテーマ）人材の育成・活用

（ご出席者）

有田 敏彦	国立大学法人北見工業大学 社会連携推進センター 教授
上野 真司	NPO法人森のこだま 代表・ランプの宿森つべつ 支配人
黒瀧 秀久	学校法人東京農業大学生産学部 学部長・オホーツク実学センター長
後藤 菜生子	(株)知床らうすリンクル 代表取締役
新保 元康	札幌市立発寒西小学校 校長
三木 亨	てしかがえこまち推進協議会 UD部会長
道山 マミ	合同会社大地のりんご 代表社員



稚内会場

日時 平成27年5月28日（木）
14:00～16:00

場所 稚内商工会議所 産業交流センター 2階 研修室
（サブテーマ）地域資源の活用・対流の促進

（ご出席者）

小池田 章	(株)フレイン・エナジー 代表取締役
佐々木 政憲	稚内北星学園大学 学長
田中 美智子	(株)丸夕田中青果 統括本部長・2011年やん衆横丁11月の陣 実行委員長
堂脇 聖美	餅café&stayわが家 経営
西谷 榮治	前利尻町立博物館 学芸課長
吉川 勝	(株)ホクユーストアー 代表取締役



会議での主なご意見

世界水準の価値創造空間の形成・対流の促進

(北海道の生産空間)

・北海道の生産空間ほど豊かな場所はない。新しいことに取り組みやすく、新たな人を受け入れる環境があることから、将来は暗くないと考える。

(世界に目を向けた意識・海外ネットワーク)

・世界水準の価値創造空間を語るには、世界水準がどのようなものか知っておくべき。子供の頃からの価値観の醸成等が必要。
・10年後、20年後の北海道を見据えると、今は挑戦すべき時期。1度や2度の失敗であきらめてはいけない。多くの人々がサハリン航路を活用して、日本の素晴らしい食材等を世界に向けて売り込むルートとして活用していったほしい。

(定住・交流環境の整備)

・消滅可能性都市と言われている地域でも、素晴らしい資源を地域の人々が活かす取組を行うことで人口流入に繋がっている。一方、人口流出を食い止めるには、働く場のほかに地域に学ぶ場が必要であり、それがうまく循環するという仕組みが望まれる。
・ユニバーサルデザインの観点から見ると、空港を一步出た途端、移動が大変になるのが現状。誰が来ても楽しいまちづくりを進めることが重要。

人材の育成・活用

(若者、高齢者、女性、障がい者等が活躍できる環境整備)

・次世代を担う若者の育成はもちろん大事であるが、高齢者の知恵をいただくという視点も重要。高齢者自身の生きがいにも繋がり、北海道全体が元気になるのではないかと。
・地域には、働くパワーがあるが、育児の面で就業が難しいといった人は多い。いつ来ても、いつ帰ってもよいという「わがままパート」という仕組みを作り、従業員に好評。

(起業・創業支援)

・起業家支援施策が多々あるが、都市で働けない人が地域で起業できるほど新規創業は甘くはない。将来性があり、可能性がある人に、3年程度しっかりと投資することが大事。

(地域づくり人材の発掘・育成)

・「人こそ資源」は大切であるが、現在の小学校では、雪や道を始め、北海道の魅力や歴史、地理等が十分教えられておらず、「北海道人」としての意識が育っていない。子供たちに「北海道学」を教育できるようなカリキュラムや教材等の開発が望まれる。

地域資源の活用

(外部からの視点、人材)

・地域には磨けば光るダイヤモンドのような資源が眠っている。他者の視点の気づきが重要。流氷観光も、都会の人々に流氷の魅力が発見されて発展してきたもの。

農林水産業・食関連産業

(「食」の高付加価値化)

・北海道の一次産品は素晴らしい。そのまま売ってもある程度のお金で売れてしまうが、付加価値を付けて特産物にしていけないと、北海道の人が暮らしていけない。
・北海道には菓子の原材料が豊富。北海道に進出して成果を上げている製菓業者を参考にし、全国各地の製菓業者を各地域に誘致すれば良いと思う。

(農山漁村の活性化)

・漁業者の高齢化が進んでいる。漁業が儲かり、若い人にとって魅力的な産業になる必要がある。

観光

(観光地域づくり)

・魅力的な観光地域をつくるためには、地域の関係する主体が連携してストーリーを作っていくことが重要。

(外国人旅行者の受入環境整備)

・富裕層の外国人観光客がプライベートジェットで北海道に来ることができるようにする必要がある。チャンスをロスしていると思う。

エネルギー

(地域の資源を活用した地産エネルギー)

・化石資源に替えて、地産のエネルギーを活用していくと、地域に対しても仕事や雇用の創出につながると思う。

実施趣旨

新たな北海道総合開発計画の策定に向けて、計画の内容充実や地域の意見の反映、また、計画に関する国民理解の増進を図ることを目的として、地域の課題解決・活性化に携わる方々が活躍している現場を訪問・見学し、ヒアリング及び意見交換を全道で実施。

実施概要

(実施内容)

- ・ヒアリング及び意見交換
- ・活動現場の訪問・見学

(実施時期)

平成27年4月～6月上旬

(ヒアリング・意見交換のテーマ例)

- ・地域づくりを担う人材の発掘・育成
- ・定住人口の維持・拡大
- ・産学官金連携のプラットフォームづくり
- ・地域資源を活用した農山漁村の活性化
- ・世界に通用する魅力ある観光地域づくり
- ・高付加価値化を図る「食」の総合拠点づくり
- ・「食」の海外展開
- ・再生可能エネルギー等の地産地消の促進

36名の方々に現地ヒアリング・意見交換を実施

